＜５＞COPD

背景

COPD（慢性閉塞性肺疾患）は肺の炎症性疾患で、かつて肺気腫、慢性気管支炎と称されていた疾患が含まれています。主な症状は、咳・痰・息切れ等の症状であるため、見過ごしてしまいがちで、発見の遅れにつながることがあります。

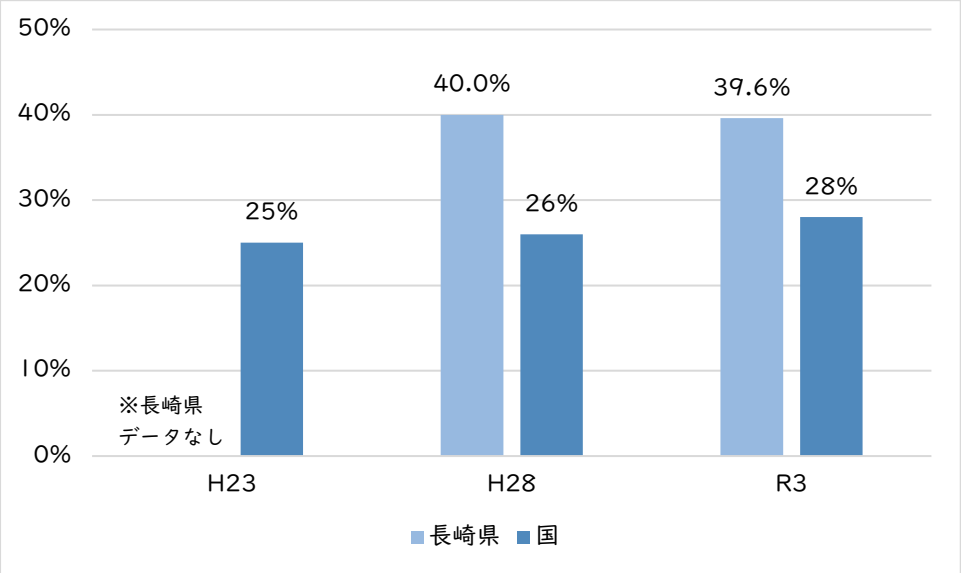
また、COPD は心血管疾患、消化器疾患、糖尿病、骨粗鬆症、うつ病などの併存疾患や、肺がん、気腫合併肺線維症等の他の呼吸器疾患との合併も多いほか、栄養障害によるサルコペニアからフレイルを引き起こすことからも予防をはじめとして様々な取組を進めることが求められます。

COPD の原因としては、50～80%程度、たばこ煙が関与し、喫煙者では 20～50%が COPD を発症するとされています。喫煙だけでなく、遺伝的因子、感染、大気汚染、幼少児期の栄養問題なども原因として挙げられますが、健康づくりの取組としては喫煙対策を進めていくことが重要であり、喫煙対策により発症を予防するとともに、早期発見と禁煙や吸入治療等の介入によって増悪や重症化を防ぐことが重要とされています。

現状と課題

健康日本 21（第二次）では、認知度を上げることで早期発見・介入に結び付け、健康寿命の延伸や死亡数の減少に寄与することを期待し、「COPD の認知度の向上」を目標としていた点を参考に、健康ながさき 21（第２次）でも、同目標を設定し、周知啓発などの取組を行いました。令和３年の本県の認知度は、国との比較で、国の値を上回りましたが、目標値 80%の半分程度であったことから、引き続き認知度の向上に向けた取組を行うことが必要です（グラフ１参照）。

グラフ１　COPD に関する認知度



（出典：長崎県生活習慣状況調査、（一社）GOLD 日本委員会「COPD 認知度把握調査」）

目標と指標

①COPD の死亡率の減少（国目標）

指標	COPD の死亡率（人口 10 万人当たり）
データソース	人口動態調査
現状値	18.8（R3）
ベースライン値	R6 までの最新値
目標値	12.5（R14）

施策の方向性と取組

○COPD の発症予防、早期発見・治療介入、重症化予防

COPD に関する情報として、疾患の病状・病態の認知を図るため、原因、症状、予後を知ってもらい、予防や早期発見・介入につないでいくことで、死亡率の減少を目指します。

（取組）

・COPD に関する認知度向上のための普及・啓発

・禁煙支援の取組

・早期発見・早期治療につなぐため医療機関受診の周知・啓発